

家庭科では実習の機会が多く、油断すると危険を招くことがある。そこで、ここに実習の基本的な注意点を挙げる。詳細は、教師の指示に従うこと。

○調理・被服実習の場合

1. 実習開始前の心得

- (1) 実習に大切なことは、計画的かつ落ち着いて作業を進めていくことである。従って、遅刻せず、余裕をもって準備に取り掛かることが大切である。例えば、余裕のない状態で実験を開始すると事故を引き起こす可能性が高くなる。
- (2) 調理実習時は、エプロン、三角巾、マスクを着用すること。着用目的は衣服を汚さないことと危険防止のためである。実習台上や足下に荷物を置いたまま実習をすると危険なので、必要なもの以外は調理室に持ち込まないこと。
- (3) 実習を始めるにあたり疑問に思うことは教師に質問して事前に確認し、不安のないようにしておくこと。勝手な判断が事故につながることもある。

2. 実習中の注意

- (1) 実習は共同でおこなう場合が多く、常に周囲に多数の人がいて、同じような行動をとっている。自分の作業のみに気をとられて周囲に注意をはらうゆとりの無い時に事故が発生する。従って、自分の作業に気を配ると同時に他人の行動や周辺環境にも気をくばることが大切である。
- (2) 調理実習では常時、刃物・ガス・熱湯・油を使用するので、事故や火災の防止に細心の注意を払うこと。また、実習室の床は水に濡れると滑りやすいので、実習中は床に水をこぼさないよう留意し、こぼれたときはすぐに拭いて、常に乾いた状態にしておくこと。
- (3) 調理実習では食品を扱うので、食中毒防止のため、食品材料や調理器具、食器は衛生的に取り扱い、手指を清潔に保つことも大切である。

3. 実習終了時の注意

- (1) 実習のために使用した道具は、もとの場所に戻すこと。刃物、はさみ、縫い針等は、怪我の原因になりやすい。
- (2) 実習終了後は、電気・ガス・水道などの点検を行い、次に使う者が安全に使用可能な状態にしておくこと。アイロンは使用後必ず電源を切ること、ガスは使用後必ず元栓を締めること、
- (3) 調理実習終了時には、決められた方法でごみの分別処理を行い、所定の場所に捨てること。

